

第29回サマーコンサート in 志木に出演

恒例の標記コンサートが、2016年7月10日、志木市民会館パルシティで開催され、17の団体・個人が参加した。

志木グリークラブは、1部の8番目に演奏した。演奏した曲は、「ふるさと(室生犀星)」「希望の島(のぞみのしま)」「宇宙戦艦ヤマト」の3曲である。

指揮は、団内指揮者の関本さんが行った。今回指揮者が、関本さんになった経緯について簡単に触れる。2010年7月から、合唱指導をしていただいている矢澤先生が、4月中旬体調を崩され長期入院を余儀なくされた。サマーコンサートで歌う曲を選曲し、いざこれから本格的な練習に入ろうとしていた時機であったため、一時は不参加も考えた。しかし、既に参加申し込みも済んでおり、何とか参加にこぎ着けるため、志木第九の会でご指導いただいている初谷先生に、実情を話したところ、サマーコンサート当日は、他の演奏会と重なっていて指揮はできないが、練習指導はできるとの快諾を得て、何とか本番を迎えることができ、ピンチヒッターとして関本さんが指揮をした次第である。

サマーコンサート当日は、9時15分に集合し、声出しをした後、10時から20分間ホールでのリハーサルを行い、ステージでの並び方、響き等を確認し、本番に備えた。

1曲目に室生犀星作詞、磯部俣作曲の「ふるさと」を演奏した。この曲は、第17回おとうさんコーラス大会(2006年7月29日、栃木県小山市、白鷗大学東キャンパス白鷗ホールで開催)において、初谷先生の指揮、団員20名で歌ったことがある。

(その時のメンバーの内9名が、今回歌った)

この曲は、転調が多く、正確な音程を出すことが求められる曲である。

ハ長調で始まりハ短調に転調した後、変ニ長調に転調、更に嬰ハ長調に転調最後はハ長調に戻って終わるなど磯部俣作曲らしい名曲であり、我々にとっては難曲でもある。

緊急事態での演奏会になるので、新曲は仕上げるまでの時間が足りない、と言って余り軽い曲は、サマーコンサートに相応しくない。悩んだ末、選曲したのが、「ふるさと」と言う訳だ。ところが、紺曲をマスターするのは、なかなか大変で、以前おとうさんコーラス大会向けに練習した時も、初谷先生にかなり扱かれた。

今回初谷先生から指導を受けた内容を纏めると

- ① この曲は、歌詞が暗い感じがするが、決して暗く歌う曲ではない。
サカサとテンポ良く明るい声で歌うこと。長調から短調に転調、短調から長調に転調することで、曲想が生まれる。
- ② 自分のパートの横の音も大切だが、他のパートの音、即ち縦の音を意識して歌うこと。
- ③ 和声法として、先生は“ダンゴ”と表現されたが、ベース、トップテナーの音、特にベースの音の上に他のパートの音を重ねてゆく、歌い方をすること。
そうゆう箇所が随所に出てくるので、そこでハーモニーを確認すること。
- ④ 力まず、50%位の声量で歌うと他のパートの音をよく聴くことができるので、ハッキリやすくなり倍音が生まれ、結果として大きなハーモニーになって、会場に響くようになる。等々であった。

初谷先生が合唱指導に来られない時は、関本さんの指揮で練習することになるが、最近、メンバーの殆ど全員と言っても良い位、物忘れが進んでおり、初谷先生からの指導内容など、2歩歩けばすっかり忘れて、毎回何から出直し、指摘事項など忘れて、前と同じように歌っている。歳を取るとなかなか新しいことは、身につかないようだ。

「ふるさと」は、転調が多いと書いたが、転調のところで、音が下がるのが、なかなか直らない。いつも転調のところで音が半音位下がるのは、私が属する 2nd-Tenor が犯人のようで、何度も何度もやり直しをさせられた。それにしても、2nd-Tenor の音を聴きながら、自分のパートの音が出せるメンバーが我が団にいることに、いつも感心していた。音感の良い人と私のような鈍い人が、一緒に歌ってハーモニーを作るのが、合唱の難しさであり、面白さであると思う。

要は、楽譜の音符通りの音を出せば良いことで簡単なことなのだが・・・。

それがなかなか難しい。簡単にみえて結構難しいと同時にハモッた時は快感だ。

ところで、当日の演奏録音を後で聴いて分かったことであるが、辛口に評価し一言でいえば、“歌い過ぎ”である。ステージに上がると（歳甲斐もなく）ガンバッテ、自分が頑張らなければという意識が強く出て、大きな声で歌う傾向がある。ある特定のメンバーの声が聴こえることは、合唱である観点からいえば、余り好ましくない。

出だしの Top-Tenor と 2nd-Tenor が、ハッキリ入るところから、出来ていない。

また、初谷先生から指導を受けた他のパートを良く聴いて、50%位の音量で歌うことが、全く出来ていない。それでも最後のハーモニーは、ハモッていて、終わり良ければ全て良しの感じがする演奏だった。

ここで、「ふるさと」の歌詞を紹介する。

ふるさとは遠きにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの
よしや うらぶれて異土の乞食（かたい） となるととても
帰るところにあるまじや
ひとり都のゆふぐれに
ふるさとおもひ涙ぐむ
そのころもて
遠きみやこにかへらばや
遠きみやこにかへらばや

室生犀星『抒情小曲集』

この詩で、いつも話題になるのは、最後の2行の「遠きみやこにかへらばや」の〈遠きみやこ〉とは何処なのかということである。

諸説あるが、萩原朔太郎は、この詩が発表された当時、“みやことは、犀星の故郷金沢であるとの説を書き、後でこの詩が金沢で書かれたことが明確になったとき、みやことは、東京である”ことが、現在では定説になっている。

解釈として“故郷金沢でのさまざまな苦い思い、抑え切れない怒り、やはり自分は東京へ行くべきだ。

たとえおちぶれても二度と帰るまい、この気持ちを強く持って東京へ帰ろう・・・”となるのではないか。

このことは、室生犀星(1889年<明治22年>8月1日～1962年<昭和37年>3月26日)の出生に関係があるのではないか。室生犀星は、加賀藩の足軽頭の小島弥左衛門吉種とその女中であるハルとの間に私生児として、金沢で生まれた。7歳の時、真言宗寺院雨宝院の住職である室生真乗の養子になった。この時、室生照道を名乗ることになった。

“犀星”と名乗ったのは、金沢市内を流れる犀川の西に生まれ、養子にいった雨宝院が犀川の左岸にあり、育ったからと言われている。1910年<明治43年>に初めて上京し、その後は、何度も帰郷・上京を繰り返している。北原白秋、萩原朔太郎らと親交をもち、詩作を行っている。戦後は、小説家としてその地位を確立し、多くの作品を生んでいる。

2曲目の「希望の島(のぞみのしま)」は、1894年頃、D. B. Towner が、Mark. M. Jones の原曲を男声四部合唱に編曲した。原曲は、アメリカのキリスト教福音派の賛美歌(Gospel Song)の“That Beautiful Land”である。

日本語の作詞者である小松玉巖(1884～1966)は、秋田県生れで山田耕筰とほぼ同じ時代に活躍した。小松耕輔が本名で、玉巖(ぎょくがん)はペンネームである。彼は、全日本合唱連盟の設立に参加し、初代と3代目の理事長を務め、日本の合唱コンクールの基礎を築いた。小松玉巖は、1909年9月、日本語の歌詞を付けた“希望の島”の楽譜を出版した。

その歌詞は、

遙か隔つ 海のあなた 波風静かに
四時花咲き 香りは満つ あわれこの島よ
希望(のぞみ)の島 希望の島 ものみな たりみち
日は落ちず 花散らぬ 喜びの ところよ

天地(あめつち)には 光充ちて み空に星ひかり
力たらい 心あがる あわれこの島よ
希望(のぞみ)の島 希望の島 ものみな たりみち
日は落ちず 花散らぬ 喜びの ところよ

1917年同志社大学グリークラブが、初めて“希望の島”を演奏した。ただ、太平洋戦争中は、原曲がアメリカの賛美歌であることを隠すため作者不詳の曲として歌われた。約100年間に亘って、歌い継がれてきた“希望の島”を私たちは何度も歌ってきたが、皆が良く知っているだけに感動を与える演奏をするのは難しい。

今回のサマーコンサートでは、我々の後に演奏したドン・キホーテ男声合唱団も「希望の島」を演奏した。男声合唱曲の定番であることの証拠である。

3曲目に演奏した「宇宙戦艦ヤマト」は、1977年公開されたアニメーション映画の主題歌で、阿久悠作詞、宮川泰作曲である。

この曲が、阿久悠作詞というのは、余り知られていない。
(「ピンポンパン体操」の曲も阿久悠作詞だ。これも余り知られていない)

この曲は、TV-アニメーション「宇宙戦艦ヤマト」のテーマソングとして作られた。1974年(昭和49年)のことで、歌ったのは、ささきいさおである。

歌詞は、

ゝさらば地球よ 旅立つ船は 宇宙戦艦ヤマト
宇宙の彼方 イスカンダルへ
運命背負い 今飛び立つ
必ず此处へ帰ってくると
手を振る人に 笑顔で応え
銀河をはなれイスカンダルへ
遙々臨む 宇宙戦艦ヤマト

さらば地球よ 愛する人よ 宇宙戦艦ヤマト
地球を救う 使命を帯びて
戦う男 燃えるロマン
誰かがこれをやらねばならぬ
期待のひとが 俺たちならば
銀河をはなれイスカンダルへ
遙々臨む 宇宙戦艦ヤマト

4分の4拍子のテンポあるの曲であるが、2拍子風に強弱をつけて、ハギレよく、リズムよく歌うことが、ポイントである。

この曲は、ジックリ歌うというより、元気よく、歌って終わるのでよいではないか。
3曲目の最後の曲なので、男声合唱らしく、元気よく終わって、聴衆の方から、「ブラボー！！」の声が掛かったので良いでしょう。

第29回サマーコンサートの最後は、来場者の皆様と出演者全員で「夏の思い出」を歌って、終演となった。

来年は、30回目のサマーコンサートとなるので、今から、練習を積んで、今年以上の良い演奏をしたいと考えている。

(2nd-Tenor ; 和氣 敏夫記)

第29回

サマーコンサート

in 志木

- | | |
|---------------------------------------|------------------|
| ① 志木混声合唱団 | ⑩ 琴の会 |
| ② 細田学園高等学校合唱部 | ⑪ ドン・キホーテ男声合唱団 |
| ③ スtringス志木 | ⑫ 志木クライネコール |
| ④ 志木第九の会 | ⑬ コーロ・クラベリートス |
| ⑤ La Chamber verte Saxophone Ensemble | ⑭ ありとまーの |
| ⑥ ピアノ独奏 渡辺修司 | ⑮ アンサンブル WINT |
| ⑦ コーロ・アルマ | ⑯ 慶應義塾志木高等学校器楽部 |
| ⑧ 志木グリークラブ | ⑰ 志木フィルハーモニー管弦楽団 |
| ⑨ ゴスペルサークル寿限無 | ⑱ 全員合唱 夏の思い出 |

2016年7月10日(日)

入場無料

開場 11:30 開演 12:00

志木市民会館パルシティ

ロビー演奏 ゴスペルサークル寿限無 (11:40)

- 主催/(公財)志木市文化スポーツ振興公社・サマーコンサート実行委員会
- 後援/志木市・志木市教育委員会・志木市商工会・(株)ジェイコムさいたま東上局・すまいるエフエム(株)
- 協賛/志木音楽サークル連絡会 ●MC/瓶子・佐伯 ●ポスター原画/佐伯哲朗
- 問合せ/志木市民会館パルシティ Tel:048-474-3030 HP:www.sbs.or.jp e-mail:jigyous@sbs.or.jp